



国民年金

なんでこんなに低いの？
納付率が過去最低を更新



納付率低下の3つの理由

厚生労働省が今年7月に公表した「2011年度の国民年金保険料の納付状況と今後の取組等について」という資料によれば、2011年度の国民年金保険料の納付率は58.6%となり過去最低を更新したそうです。

なぜ国民年金の納付率が低下しているのでしょうか。また納付率が低いことで、どんな影響がでてくるのでしょうか。

国民年金の納付率が低下している理由としては、①納付率の高い高齢者層の割合が低下したこと
②市場化テスト事業の実績低迷
③第3号被保険者不整合期間に係る種別変更、が挙げられます。

①は、納付率の比較的高かった団塊の世代が保険料の納付を終え、受給者側に回ったことによるものです。今や20〜24歳の若年世代が国民年金第1号被保険者全体の20%を占め、その割合は最大となっています。若年世代の納付率の低

下が全体の納付率を下げている点
は否定できません。

②に関しては、国民年金保険料の収納事業のうち、強制徴収や免除などの申請勧奨を除く、納付督促業務を民間に委託しているわけですが、獲得すべき保険料の目標が達成されていません。つまり、国民年金保険料未納者に対して保険料の納付督促を行っているものの、保険料の支払いに必ずしも結びついていないのです。



③に関しては、日本年金機構は昨年から、会社員の配偶者に扶養され保険料を支払う必要のない国民年金第3号被保険者のうち、配偶者の退職後、第1号被保険者への切り替えをしなかった人に関し、第1号へ種別変更するように届出勧奨を行っています。これにより、切り替えを行っていない人に関し、過去の国民年金保険料の支払いが生じるようになったのですが、その納付が追いつかなか

たことによるものです。

平均年収が159万円？

この3つが主な理由ではあるのですが、その背景には、さらに構造的な要因も指摘されています。

まず、第1号被保険者といえは自営業者を思い浮かべる人が多いかと思いますが、実は3割の人が無職であり、臨時雇用者・パートも26.1%と、就業状態は様々です。納付しない理由として「保険料が高く、経済的に支払うのが困難」と訴える声が大きく、就業形態が所得水準に影響を与え、その結果、生活が決して楽ではないがために、保険料を納めることができにくい側面もあるのです。

厚生労働省が公表した「公的年金加入者等の所得に関する実態調査」によれば、第1号被保険者の1人当たりの平均年収は実に159万円、これに対して老齢年金受給者の平均年収は189万円と、加入者よりも受給者の年収のほうが高い状況となっています。

伊藤 亮太
(いとう・りょうた)
スキージャパン副社長
CFP®、DCアドバイザー
証券外務員資格など

証券会社勤務後、2007年11月に独立系FP会社スキージャパンを設立。ライフプランニングの提案、保険の見直し、証券取引所などでの資産運用に関する講演など多方面で活躍。東洋大学経営学部非常勤講師

FP伊藤亮太のサイト <http://www.ryota-ito.jp>
スキージャパン <http://www.skirr-jp.com>